

報道関係者 各位

平成28年12月 22 日

【照会先】

秋田労働局労働基準部健康安全課
課 長 齋藤 孝一
主任安全専門官 伊藤 武
(電話:018-862-6683)

冬季の転倒災害防止について

転倒災害は最も多い事故の型（事故のパターン）

「転倒による労働災害」は、秋田県の労働災害の中では最も多い事故の型となっています。過去には「墜落災害」が最も多い事故の型でしたが、建設業の労働災害防止が効果を上げてきた結果、平成 17 年に逆転し、以後ずっと逆転したままとなっています（資料 1 参照）。

労働災害の大幅な減少を図るためには、転倒災害、特に冬季の転倒災害を防止することが重要となっています。

転倒災害の発生時期（冬季の駐車場などは要注意）

転倒による労働災害は 1 年を通じ、毎月発生していますが、例年、1 2月から3月まではその他の月の 2 倍以上発生することがあるなど、冬季に大幅に増加します（資料 2 参照）。

その要因は、駐車場などにおける凍結路面による転倒災害の発生にあり、発生した場所としては平成 27 年度の場合、屋外が 70%に達しています。さらに、雪・凍結を原因とする屋外の転倒災害 77 件のうち、駐車場を歩行中が 36%、駐車場の車周辺 16%など駐車場に関係したものが 52%に達し、冬季の駐車場が危険な場所であることが明らかとなりました。

転倒災害防止のためのポスター

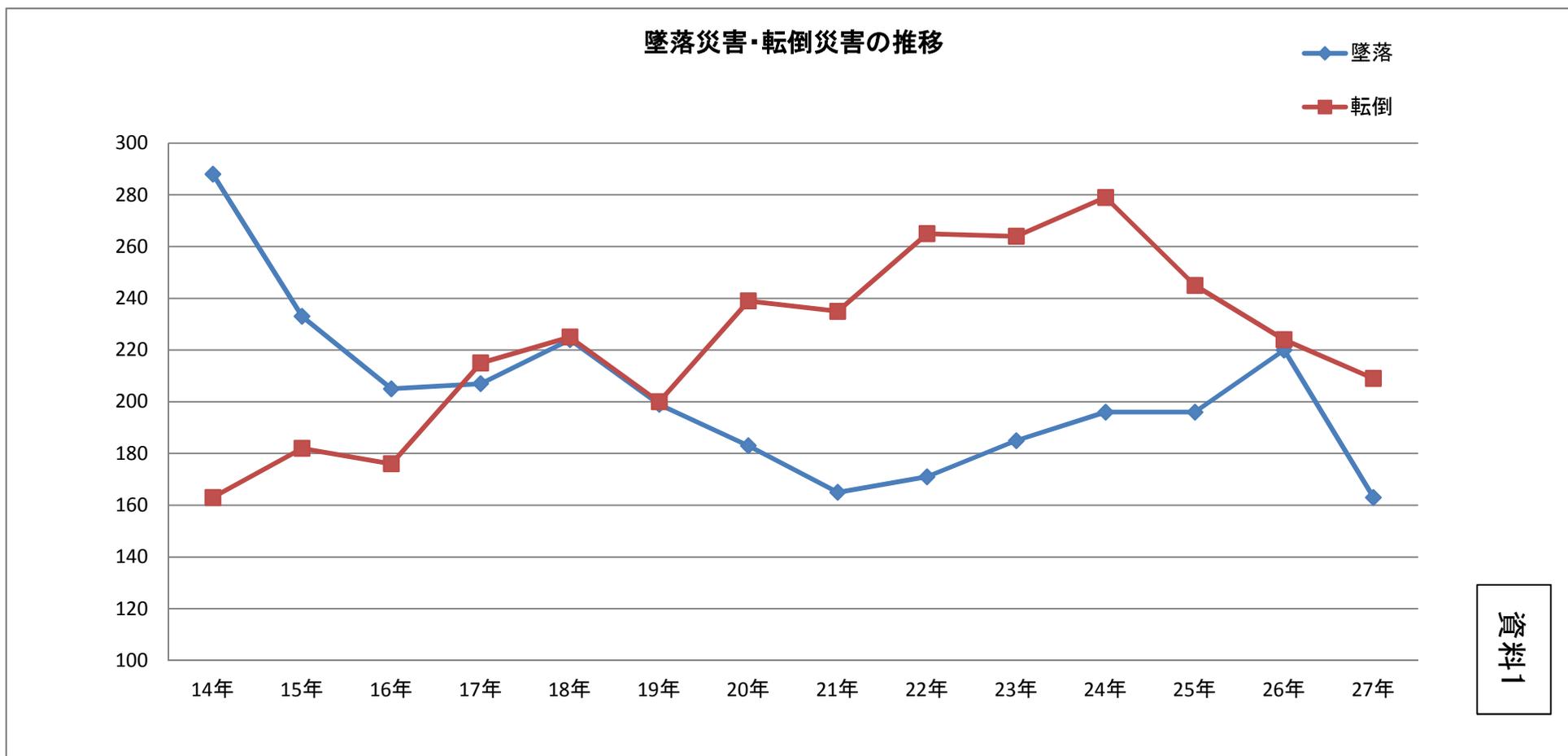
秋田労働局では、この度、別添の「冬季の転倒災害を予防しよう！」のポスターを県内の各団体、事業場に配布し、凍結路面等での転倒災害防止を呼び掛けます。

また、このポスターの送付を希望する場合は、当課（018-862-6683）までご連絡をお願いします。なお、秋田労働局のホームページにも掲載しております。

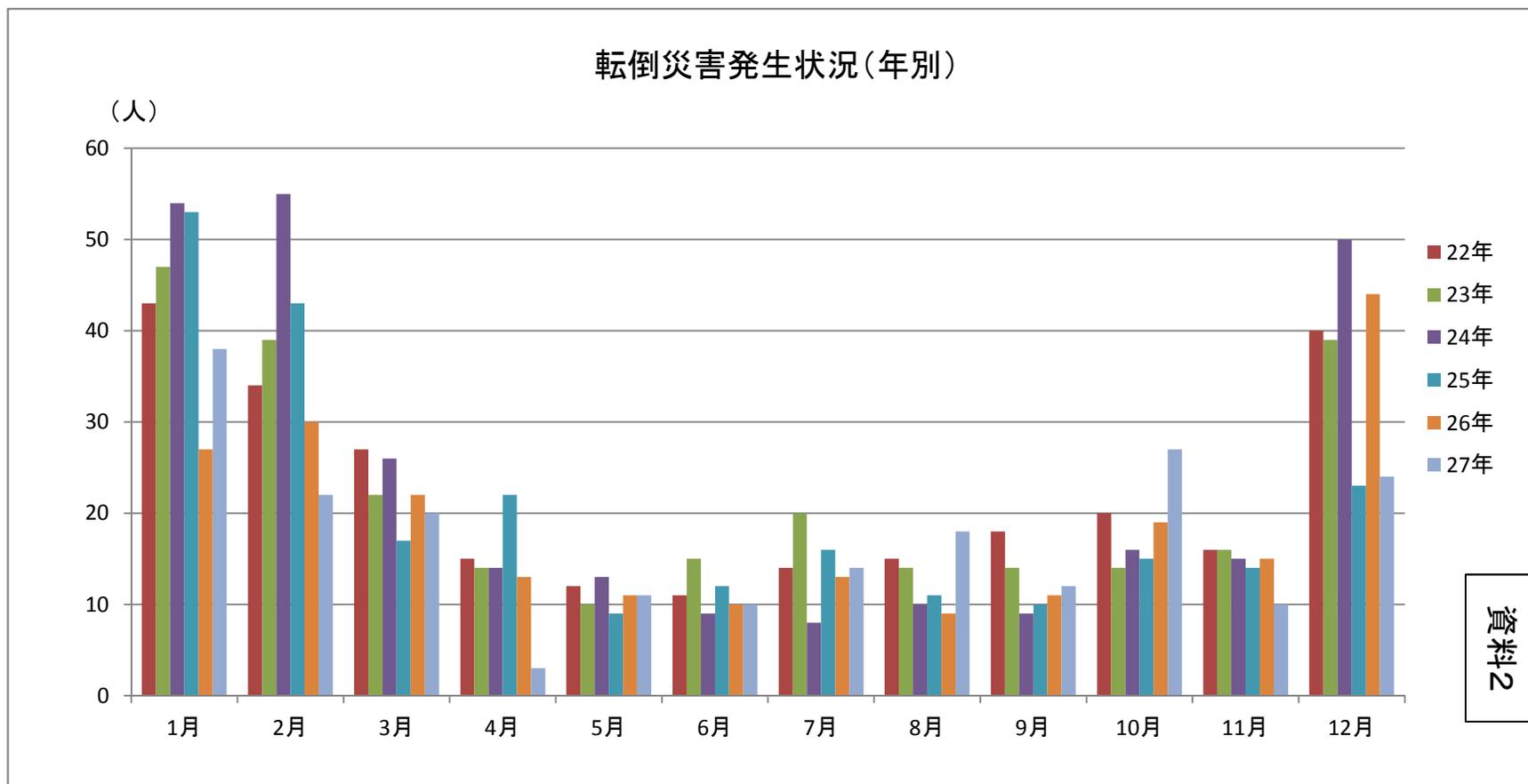
転倒災害は、労働災害としても多数を占めているものですが、一般市民の転倒事故の事例も多いことから、県民全体に役立つ情報提供でもあるものと考えており、是非広報をお願いします。

- 添付 ・資料 1 墜落災害、転倒災害の推移
・資料 2 転倒災害発生状況（年別）
・「冬季の転倒災害を予防しよう！」（ポスター）

	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年
墜落	288	233	205	207	224	199	183	165	171	185	196	196	220	163
転倒	163	182	176	215	225	200	239	235	265	264	279	245	224	209

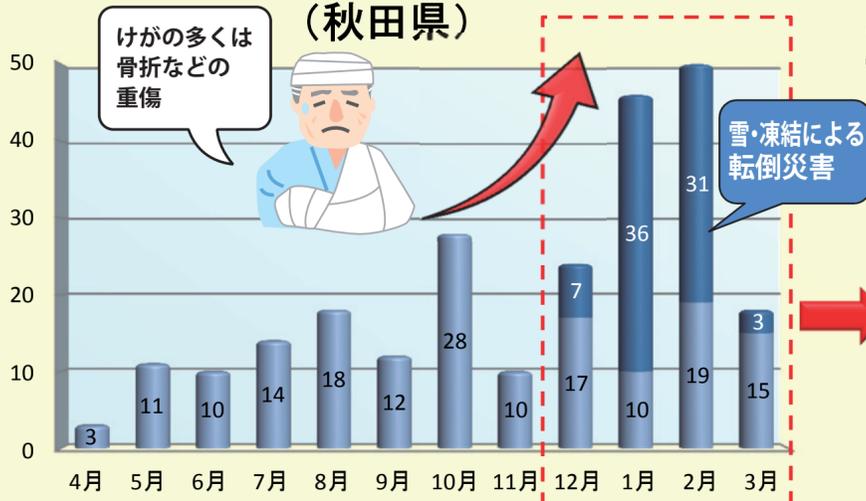


転倒 月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
22年	43	34	27	15	12	11	14	15	18	20	16	40	265
23年	47	39	22	14	10	15	20	14	14	14	16	39	264
24年	54	55	26	14	13	9	8	10	9	16	15	50	279
25年	53	43	17	22	9	12	16	11	10	15	14	23	245
26年	27	30	22	13	11	10	13	9	11	19	15	44	224
27年	38	22	20	3	11	10	14	18	12	27	10	24	209

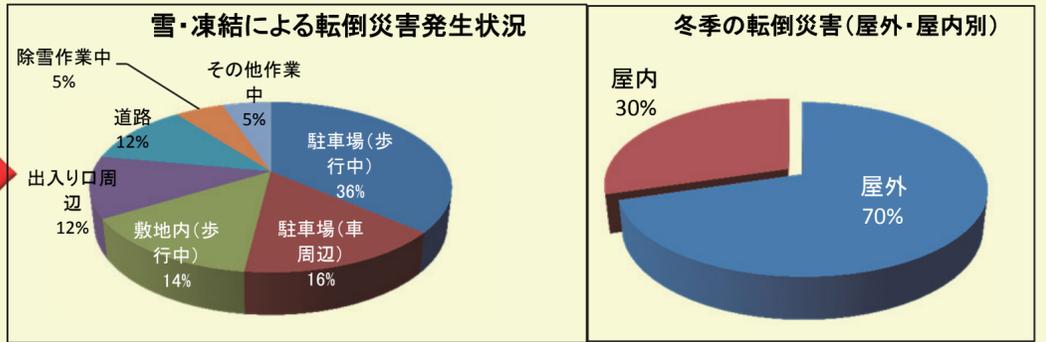


凍結注意 冬季の転倒災害を予防しよう!

平成27年度 転倒労働災害の推移 (秋田県)



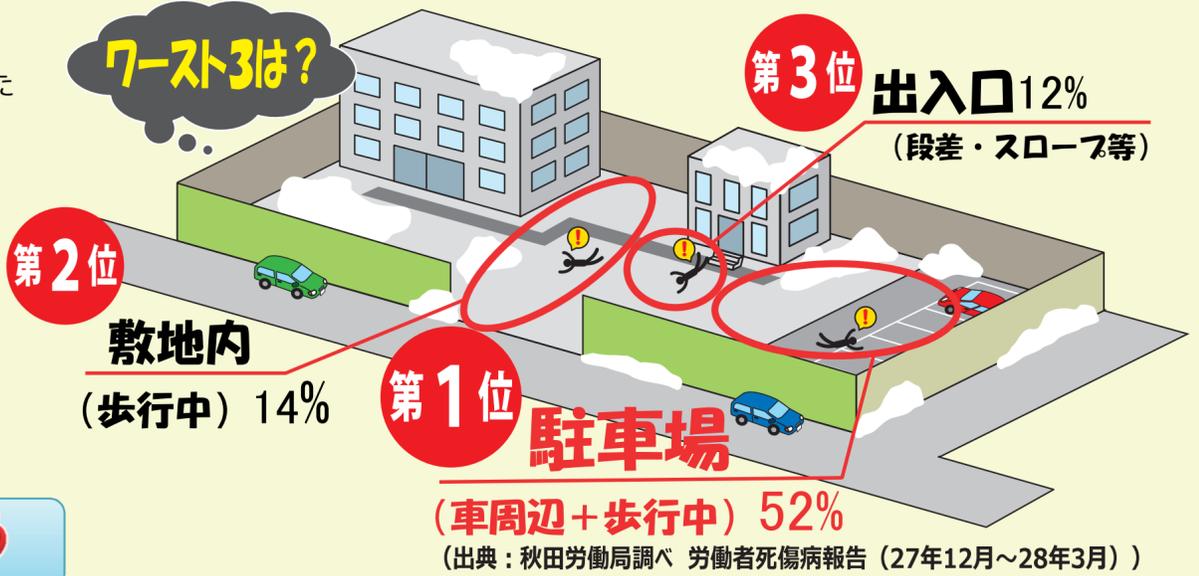
12月から3月は転倒による労働災害が多発しています。



1 危険な場所を知り予防しよう

こんな所が危険です!

- 過去の転倒災害から見た、多発場所は・・・
 - 多くの人が通って雪が踏み固められた場所や除雪機械の通った路面は滑りやすくなります。特に、
 - ・ 駐車場から事務所・作業場までの路面。
 - ・ 事務所・作業場の出入口、段差・スロープなど。
- スベリやすい場所では・・・
 - 除雪、融雪、砂撒き、マット、照明設置、注意表示など、転倒災害防止対策を行いましょ。
- 転倒災害防止用のチェックシートを活用しよう
 - あなたの職場は大丈夫? 転倒の危険をチェックしてみましょう。



2 正しく靴を選び 意識して歩こう

- 靴を選ぼう
 - 冬靴といっても全く滑らない靴はありません。しかし、滑りやすい靴はあります。防滑性能を強調した靴底にもいくつかのタイプがあります。購入時には、お店で、普段歩く路面状況との適性についてアドバイスを聞くことも大切です。
- 歩き方を考えよう、意識して歩こう
 - 急ぎ足やポケットハンド、両手で荷物を抱えての歩行はとても危険。「滑るかも知れない」という意識こそが、最強の防滑性能です。

転倒災害防止のためのチェックシート →

あなたの職場は大丈夫? 転倒の危険をチェックしてみましょう

転倒災害防止のためのチェックシート		チェック項目	☑
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか		<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか		<input type="checkbox"/>
3	安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていますか		<input type="checkbox"/>
4	転倒を予防するための教育を行っていますか		<input type="checkbox"/>
5	作業靴は、作業現場に合った防滑性があり、かつちょうど良いサイズのものを選んでいませんか		<input type="checkbox"/>
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか		<input type="checkbox"/>
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていますか		<input type="checkbox"/>
8	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか		<input type="checkbox"/>
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか		<input type="checkbox"/>

チェックの結果はいかがでしたか? 問題のあったポイントが改善されれば、きっと作業効率も上がって働きやすい職場になります。どのように改善するか「安全委員会」などで、全員でアイデアを出し合いましょ!

冬の靴(靴底)のパターンには... メリットとデメリットがあります!

① 金属ピンタイプ

【メリット】
アイスバーンで強い(滑らない)

【デメリット】
床タイルでは滑りやすい
摩擦しやすい

② 深い溝タイプ

【メリット】
湿雪でのグリップ力が強い

【デメリット】
アイスバーンで弱い(滑る)

③ 柔らかいゴムタイプ

【メリット】
スタッドレスタイヤの効能あり

【デメリット】
経年劣化のリスクがある

④ 滑り止め配合ゴムタイプ

【メリット】
ガラス繊維・アルミ粒子・セラミックなどは効果あり

【デメリット】
配合材により大差
購入時には分からない

(出典: 転倒災害防止プロジェクトチーム「滑りにくい靴モニター結果」)

3 気象状況と転倒の関係に注意しよう

- 冬季の気象と転倒の注意点
 - 雪の積り初めは、気持ちや靴の準備ができていない
 - 降雪量の多い日の朝、除雪後の駐車場や路面
 - 気温がプラスとマイナスを繰り返す日
 - 積雪があるのに雨が降った日の翌朝
 - ブラックアイスバーンなど凍結に気が付かないとき
- 路面が凍結する典型パターンは?
 - 日中に気温がプラスになり、夜間や翌朝に冷え込んだときは要注意。
 - うっすら積雪が被れば、なお危険。

